

要旨

不確実性が高まる世界でPJを成功に導くには
～愚直にPMBOK第7版を読みました～

¶ テーマ

PMBOKが4年ぶりに改訂された。改訂されたPMBOK第7版を使うとプロジェクト管理やプロジェクトの進め方などがどう改善されるのか？プロジェクト管理はビジネスにどのように影響を与えるのか？本研究グループでは、PMBOK第7版によるプロジェクト管理について、これまでのPMBOK第6版と比較して研究する。

¶ 研究の目的

PMBOK第7版は、その発行時にも話題になったように、構成がPMBOK第6版とは大きく異なっている。旧版のようなプロジェクト管理のハウツー本というよりも、プロジェクト管理におけるバイブルのような位置付けに変化している。本研究グループでは、このような方針転換が起きた背景を意識しながら、PMBOK第7版を活用した「時代にあったプロジェクト管理手法」について理解を深めることを目指した。また、本研究会を通じて得られたナレッジを自社に持ち帰り、社内におけるPMBOK第7版の活用および理解深耕にも貢献したいと考える。

¶ 研究方法

各メンバーに担当領域を割り振り、以下の本研究グループ独自の視点からPMBOK第7版を読み込んだ。そのうえでPMBOK第6版との比較から見えてくる「PMBOK第7版が目指す新しいプロジェクト管理のかたち」や「時代にあったプロジェクト管理手法」について、メンバー間で考察結果を持ち寄り、意見を交換しながら議論を重ねた。

1. PMBOK第7版全体の読み込み
2. PMBOK第7版プロジェクトマネジメント標準「プロジェクトマネジメントの原理・原則」読み込み
3. PMBOK第7版プロジェクトマネジメント標準「プロジェクトマネジメントの原理・原則」とプロジェクトマネジメント知識体系「プロジェクト・パフォーマンス領域」の関係に対する考察
4. 上記3における第6版との変化に関する考察
5. PMBOK第7版プロジェクトマネジメント知識体系「プロジェクト・パフォーマンス領域」の読み込み
6. PMBOK第7版プロジェクトマネジメント知識体系「プロジェクト・パフォーマンス領

要旨

域」の結果のチェックの考察

7. PMBOK 第7版プロジェクトマネジメント知識体系「プロジェクト・パフォーマンス領域」の他のパフォーマンス領域との相互作用に関する考察
8. PMBOK 第7版プロジェクトマネジメント知識体系「テーラリング」の読み込みと考察
9. PMBOK 第7版プロジェクトマネジメント知識体系「モデル/方法/作成物」の読み込みと考察

¶ 研究成果

PMBOK 第7版と PMBOK 第6版の全体像を比較すると、PMBOK 第7版の世界では「プロジェクトが実現する『価値』の捉え方」と「テーラリングの対象」により重点が置かれている。このような変化が起きた理由は、プロジェクトを取り巻く環境の変化であると言えるだろう。

PMBOK 第7版のプロジェクトマネジメント標準が、これまでの“プロセスベース”から“原理・原則ベース”に移行したことが意味するのは、PMBOK 第6版で謳われていたようなウォーターフォール型のプロジェクト管理手法だけでは対応しきれないということである。とりわけ、アジャイル型のプロジェクトには、より自由度の高い PMBOK 第7版型のプロジェクト管理手法がマッチすると考える。

プロジェクトを取り巻く環境はいつの時代も変化しているが、昨今は技術革新や価値観の多様化が加速し、ますます世の中の不確実性が高まっている。

本研究グループの成果発表では、この「不確実性」に焦点を当て、PMBOK 第7版が示す新たなプロジェクト管理の世界を独自の視点から読み解き、そのポイントを分かりやすく解説する。

¶ 参考

Project Management Institute, Inc.,

「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第7版+プロジェクトマネジメント標準」、2021年

Project Management Institute, Inc.,

「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第6版/Project Management Institute」、2017年

※PMBOK は米国のプロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute、(PMI))の登録商標です。

※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。